

聖霊に満たされなさい。

2006. 5. 30 (火)
ベック兄メッセージ (メモ)

引用聖句

ルカの福音書 3章21節、22節

さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、聖霊が、鳩のような形をして、自分の上を下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」

エペソ人への手紙 5章18節

また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。

今、司会の兄弟が言われましたように、イエス様の救いは本当に素晴らしいものです。私たちが生きている間には、ピンと来ないかもしれませんし、はっきり理解できないかもしれません。けれども、この主イエス様の人間に対する救いのために、私たちは永遠に亘って礼拝せざるを得なくなります。

「イエス様から目を離さないでいなさい」。これこそ最も大切な呼びかけです。なぜなら、イエス様から目を離すなら、すぐ落ち込みます。そして私たちはすぐ悩むようになるからです。

イエス様は人間に何も要求なさいません。豊かな知識も、立派な人間になることも、お金も要求されません。主イエス様は与えるお方なのです。

多くの人たちは与えられるものだけを求めていますが、それは的外れです。大切なことは、与えられるものよりも、与え主を知ることではないでしょうか。

イエス様は本物を与えてくださいます。この、良い牧者であられるイエス様は、私たちのような者を、導きたい、教えたい、守りたいと心から望んでおいでになるのです。

イエス様は、「おいで。私のところに来なさい」と招いてくださっているのです。

イエス様は、「光」です。光であられるイエス様に近づくと、大変な恐れを感じるようになります。それは罪が明るみに出されるからです。まさにショックです。そして光のうち、「私はもう駄目。全然駄目。ゼロ以下」と分かるようになれば、これもまたショックです。けれども、イエス様は罪を明るみに出すお方だけではなく、喜んで赦してくださるお方です。

イエス様は、いつも聞く耳を持つお方です。必ず応えてくださるお方です。この素晴らしい主イエス様の救いは、「ただ」なのです。価なしに提供されています。

ほむべきお方は、もちろん父なる神です。父なる神が救いの計画をお立てになったからです。しかしこの父のお立てになった救いのご計画を実現してくださったのは、イエス様でした。

「イエス様の死」こそが、聖書の中心テーマです。けれども、このイエス様のなされた「救いのみわざ」を人間が自分のものにしなければ、何の役にも立ちません。「救いのみわざ」を自分のものとするそのために「聖霊」が与えられたのです。

イエス様は、「わたしがあなたがたの中から出て父のみもとに行くことは、あなたがたのためによい」とおっしゃいました。しかし弟子たちは、「何を話しておられるのだろう。イエス様は」と思ったに違いありません。もしそうなれば、もつともつ大変なことになってしまいます。もう行くところがないと弟子たちは思ったに違いありません。けれど、イエス様は本気でそうお語りになられたのです。御霊が教えてくださるから、わたしが離れても大丈夫。それは、御霊としてわたしがあなたがたの中に住むようになるからです」と。

それまでの弟子たちは、イエス様と一緒にただただいただけなのです。聖霊降臨によって今度、イエス様は聖霊を通して弟子たちの中に住むようになります。

今度の日曜日は五旬節(ペンテコステ)です。T 兄弟は、この間の日曜日、この五旬節について話してくださいました。ドイツのアイドリングゲンでは、毎年若者が五、六千人集まるのです。私たちも来週、またアイドリングゲンに行くつもりです。五旬節は、本当に大切なのです。

そして今、司会の兄弟のお読みになりました最後の箇所は、18節の後半です。
エペソ人への手紙 5章18節後半

御霊に満たされなさい。

単なる提案ではなく、はっきりとした命令です。「聖霊に満たされなさい」。

信じる者にとって最も大切なのは、このことではないでしょうか。なぜなら聖霊に満たされている人の苦しみは、平安のうちに保たれています。聖霊に満たされている人の問題は、解決されているのです。聖霊に満たされている人の欠乏は、取り除かれているのです。ですから、聖霊に満たされることこそ考えられないほど大切なのです。

今日は、「イエス様の経験」について考えたいと思います。でもその前に、イエス様に用いられるために、私たちは何を経験しなければならぬかについて考えたいと思います。

始めに読んで頂きました箇所は、ルカ伝3章でしたが、よく知られている箇所です。

結局、民衆は例外なく、バプテスマを受けました。ヨハネのバプテスマとは、悔い改めのしるしでした。当時、水のバプテスマを受けた人たちは、「私たちは反省します。悔い改めます。赦してもらいたい」、そういう気持ちの表われでした。

私たちの洗礼とは、全然違う意味です。私たちはどうして洗礼を受けるかと言いますと、もうすでに本当の洗礼を受けたからです。イエス様を信じ、受け入れる者は、聖霊によるバプテスマを受けています。本人がそれを分かっても、分からなくても、感じて、感じ

なくても関係ありません。事実なのです。ですから、その人たちは、「聖霊の宮」、「神の住まい」と呼ばれています。

バプテスマのヨハネの奉仕は、素晴らしい奉仕でした。「悔い改めなければもうおしまい。さばきが来る」。そして結果として、みなバプテスマを受けました。素晴らしい恵みでした。

ルカの福音書 3章21節、22節

さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、聖霊が、鳩のような形をして、自分の上にと下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」

父のみ声が聞こえるようになり、イエス様はバプテスマを受けられ、それから、聖霊が、鳩のような形をしてイエス様の上にと下られたところに書かれています。三位一体の働きについての箇所です。

イエス様の洗礼は、イエス様の公のご奉仕の出発点でした。イエス様は、ご存じのように三十歳までお語りになりませんでした。当時、許されていなかったからです。三十歳になるまでは、黙っていて、公の場で口を開いてはならなかったのです。そのような決まりだったのです。ですから、イエス様は三十歳まで大工としてお働きになったのです。

けれども、三十歳になってからは公にお話しになり、福音を宣べ伝えるようになられたのです。つまり、イエス様の受洗は、イエス様の公のご奉仕の出発点でした。この洗礼のとき、聖霊が鳩のようにイエス様の上にと下りました。けれども、イエス様が経験なされたことは、私たちの経験でもなければなりません。ですから、私たちも聖霊に満たされた者でなければなりません。

イエス様は聖霊によってマリヤの胎に宿られ、お生まれになられたということを私たちは知っています。マタイ伝1章20節、天の使いがヨセフに現われたのです。

マタイの福音書 1章20節

彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないうあなたに妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」

ヨセフは、いったいどういうことか、もちろん分からなかったはずですが。まだ結婚していないのに、マリヤは妊娠しました。ヨセフはその事実を知ったとき、マリヤは心から主を恐れる女性だと思ったでしょうけれど、「もういいです。別の男性と一緒にいたに違いない…」と。しかし御霊はブレーキをかけたのです。説明したのです。「ヨセフ、違います。聖霊によるものです」と。

ルカ伝1章35節、今度は、御使いがマリヤに現われたのです。

ルカの福音書 1章35節

御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます」。

もちろんマリヤも、いったいどういうことかと理解に苦しんだことでしょう。けれども、「主に用いられるのであれば嬉しい」と彼女は思ったに違いありません。

イエス様は、「聖なる者、神の子と呼ばれる」とあります。その証拠として、聖書は、イエス様が完全な、聖い、罪のない人生を送られたということを語っています。

イエス様を裏切ったユダでさえも、何と言ったかと言いますと、貰った金を返して、「私はとんでもない罪を犯した。罪を知らない方を裏切った」と。しかし、残念ですが、彼は後悔しただけだったのです。十字架につけられたイエス様のところに飛んで行って、「私は三年半、大嘘つきでした。いつも、『主よ、主よ』と言いましたが、一回もそう思ったことはありません。私は泥棒です」と言ったなら、イエス様は何とお答えになられたでしょうか。必ず、「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいる」とおっしゃったに違いありません。けれど、彼は後悔しただけ、また反省しただけであり、それは全く意味のないことでした。しかし彼でさえも、イエス様は罪を知らないお方だと認めざるを得なかったのです。

ヘブル書の著者は、次のように書いたのです。

ヘブル人への手紙 7章26節

また、このようにきよく、悪も汚れもなく、罪人から離れ、また、天よりも高くされた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。

とあります。

イエス様は、自発的に「罪人を救おう」という目的をもって、この世に来てくださいました。けれど、イエス様が公のご奉仕を始められる前に、聖霊が、鳩のようにイエス様の上に下ったのです。

のちに、イエス様はこの経験について、ご自分が育ったナザレの会堂で次のように話されたのです。

ルカの福音書 4章18節、19節

「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油を注がれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕われ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために。」

「油」とは、「御霊」です。

ペテロはのちに、そのことについて次のように報告したのです。

使徒の働き 10章38節前半

「それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。」

と書いています。

神の御子である主イエス様にとって、上からの力を着せられることは、イエス様の三年半に及ぶご奉仕を特徴づけた経験でした。聖霊はイエス様の上にとどまり、イエス様は絶えず聖霊に満たされておられたのです。

イエス様の弟子たちは、バプテスマのヨハネが既に言っていたことと似たような経験をしたのです。

ルカの福音書 3章16節

ヨハネはみなに答えて言った。「私は水であなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりもさらに力のある方がおいでになります。私などは、その方のくつのひもを解く値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。」

イエス様はまた、弟子たちにそのような経験を約束してくださいました。

ルカの福音書 24章49節

「さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださいましたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

「力を得るまで待ちなさい」。

弟子たちはこの聖霊の力を受けるようになりました。よく知られている使徒行伝の1章8節です。

使徒の働き 1章8節

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

初めに、「エルサレムにとどまりなさい」。次に「地の果てまで行きなさい。聖霊を受けた者として」。

イエス様の約束なされたことは、すぐに成就されました。

使徒の働き 2章1節

五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。

使徒の働き 2章4節前半

すると、みなが聖霊に満たされ、

とあります。

イエス様は私たちも同じ聖霊に満たされるように願っておられ、私たちの人生が変えられて、イエス様が栄光をお受けになり、多くの人が真理を知るに至るように願ってお

られます。疑いもなく、聖霊に満たされることほど、信じる者にとって大切なことはありません。

イエス様は、聖く、罪なく、汚れもなく、罪人から聖別されておいでになりました。それにも関わらず、なぜイエス様は聖霊に満たされることを必要となさったのでしょうか。私たちには分かりません。それは奥義です。

弟子たちの場合は違っています。その点については、私たちもはっきりしていて疑問の余地はありません。弟子たちは聖霊に満たされることなしには、イエス様の福音を宣べ伝えられなかったに違いありません。弟子たちが聖霊に満たされたとき、彼らの人生そのものは、いっぺんに変わりました。

私たちが主に喜ばれる人生を送りたいと思うなら、また、主は私たちを主への奉仕のために用いたいと願っておいでになられるのなら、私たちもまた聖霊に満たされなければなりません。

一つの質問について、考えたいと思います。聖霊は、なぜ鳩のような形をして、イエス様の上を下ったのでしょうか。聖書は、鳩について四つの特徴を挙げています。

1. 純粋さ。
2. 美しさ。
3. 謙虚さ。
4. 喜んで従う覚悟。

です。

1. まず、鳩の「純粋さ」について考えてみると、雅歌 6 章 9 節に、次のように書かれています。

雅歌 6 章 9 節

汚れのないもの、私の鳩はただひとり。

これは花嫁についての花婿の判断でした。鳩は純粋なものであり、汚れのないものです。

2. 次に、鳩の「美しさ」について考えると、例えば、詩篇の作者は 68 篇の 13 節に、次のように書き記したのです。

詩篇 68 篇 13 節後半

銀でおおわれた、鳩の翼。その羽はきらめく黄金でおおわれている。

とあります。即ち、鳩は非常に美しいものであると聖書は記しています。

3. それから、鳩の「謙虚さ」について考えると、よく知られているみことばは、マタイ 伝 10 章 16 節でしょう。

マタイの福音書 10章16節後半

「鳩のようにすなおでありなさい。」

4. もう一つ、鳩の「喜んで従う覚悟」について考えると、詩篇の作者は55篇の6節に次のように書き記したのです。

詩篇 55篇6節前半

「ああ、私に鳩のように翼があったなら。」

鳩の特徴は、何かあればすぐに飛んで行くということです。

聖霊は、鳩のように、主イエス様の上に下りました。なぜなら、イエス様はすでに鳩の特徴、即ち、完全な純粋さ、美しさ、謙虚さ、喜んで従う覚悟を身につけておられたからです。父なる神は、このことを次のようなことばではっきり証明してくださったのです。

ルカの福音書 3章22節後半

「あなたは、わたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」

私たちの場合は、非常に異なります。私たちは、聖霊に満たされることを必要とします。なぜなら、私たちはこれらの鳩の特徴を少しも持っていないからです。けれど、聖霊に満たされることによって、これらの特徴は、御霊の実として私たちの生活の中に見出されるものです。

イエス様の人生は、全く聖く、美しい人生でした。イエス様は、謙遜で、いつも喜んで父のみ旨に従う覚悟を持っておられました。

私たちとは本質的に正反対なのではないでしょうか。

- ・純粋というものを考えることができず、私たちはみな、汚れている者です。
- ・美しさというものを考えられません。主の前に私たちは忌むべき者です。
- ・謙虚さということも考えられません。私たちはみな、誇り高く、傲慢です。
- ・喜んで従う覚悟ということも考えられません。私たちはみな、自己追求的、自己中心的であり、自分の意思を通そうとします。

私たちはみな、生まれたときからそういう者であり、死ぬまでそういう者にとどまるのです。もしも聖霊に満たされなければ…。

聖霊は、鳩のようにイエス様の上に下りました。なぜなら、イエス様こそ、鳩の特徴、即ち、全き純粋さ、美しさ、謙虚さ、そして喜んで従う覚悟を持っているただ一人のお方だからです。実際、聖霊に満たされる人の人生には、イエス様の純粋さ、美しさ、謙虚さ、喜んで従う覚悟のうちの何かが明らかに表われるのです。

蛇のような性格の持ち主である私たちのような人間は、聖霊に満たされることによって、鳩のような性格の持ち主になるのです。

聖霊に満たされるとは、いったい何を意味しているのでしょうか。御霊の満たしは次のようなことを意味します。

1. イエス様の純粋さを知ること
2. イエス様の美しさを反映すること
3. イエス様の謙虚さにあずかること
4. イエス様の喜んで従う覚悟を経験すること

1. 聖霊に満たされている人は、主の純粋さを知っています。

聖霊は、聖い御霊です。即ち、イエス様は、私たちの人生をきよめてくださるのです。

聖霊に満たされる前、弟子たちは肉体的であり、彼らの人生は絶えず上がったり下がったりしていました。イエス様の弟子たちは、誇りに満ち、ねたみ深く、党派心に満ち、復讐心が強く、批判的精神の持ち主です。

けれど、彼らは聖霊に満たされたときもはや、誇り、ねたみ、党派心、復讐心、批判的精神などの余地が無いほど満たされたのです。彼らは内面的に聖められ、純化されることを経験しました。

そしてまさにこのことは、私たちも必要としていることなのではないでしょうか。即ち、あらゆる汚れからの聖めです。主の霊が私たちを満たすことができるなら、私たちはイエス様の聖さを知ると同時に、私たち自身の不純さと汚れを知ります。

けれど、私たちには、このようなありのままの状態で、(つまり、汚れた者として) 主のみもとに行くことが許されており、主の前で罪を告白することができます。そうすると、主はあらゆる罪と汚れから聖めてくださいます。

力を持つために聖霊に満たされたいと思っている人たちがいます。けれど、私たちがすべてのものにまさって必要としているものは力ではありません。内面的に聖くされることです。そのときに初めて、主は、私たちを主の器として用いることができになるのです。

2. 聖霊に満たされている人は、主の美しさを反映するようになります。

本当の美しさは、聖霊が私たちを満たしてくださることがおできになるのではないのでしょうか。

使徒行伝の中で、一人の美しい人について書いてあります。それは、初代教会の最初の殉教者であるステパノです。彼は大胆に主を証しました。イエス様の御手のうちにある用いられた器でした。彼は攻撃され、議会に引き渡され、弁明せざるを得ませんでした。

この出来事について、簡潔に次のように記されています。

使徒の働き 6章15節

議会で席に着いていた人々はみな、ステパノに目を注いだ。すると彼の顔は御使いの顔のように見えた。

御使いの顔は、疑いもなく綺麗なものです。ステパノは美しかったに違いありません。

どうしてでしょう。それは、生まれつきの自然の美しさではなかったのです。ステパノは、聖霊に満たされていたからです。

使徒の働き 7章55節

しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、

ステパノのように主を見る者は、神の栄光をも見るようになります。彼はイエス様を見るようになり、イエス様の美しさが彼の顔に反映するようになったのです。

その前の4章を読むと、ペテロとヨハネについていろいろなことが書かれていますが、ペテロとヨハネとは、同じように聖霊に満たされた人たちでした。彼らについて次のように報告されています。

使徒の働き 4章13節

彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であることを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。

とあります。御霊に満たされることによって、弟子たちはイエス様に似た者となりました。彼らはイエス様の美しさを反映したのです。

綺麗になるための最良の手段と方法は、次のようなものでしょう。美しくなりたいと思うなら、聖霊によって聖められ、満たしていただくことです。そうすると、ほかの人たちを惹き付けるようになります。但し、あなたにではなく、イエス様に惹き付けられるようになります。周りの人たちは、この主を知りたいと思うようになります。なぜなら、主は、人生を変えることができになるお方であるからです。

3. 聖霊に満たされている人は、イエス様の謙虚さにあずかるようになります。

聖書全体の語ろうとしていることは、ヤコブの言ったことです。

ヤコブの手紙 4章6節後半

「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」

最も重い罪とは、謙遜の足りなさではないでしょうか。自分は無力で、自分の思っていることはもしかすると間違っているかもしれないと、絶えず思うべきではないでしょうか。「わたしは、心優しく、心へりくだっている者です」とは、イエス様しか言えなかったのです。

鳩の特徴は、胆のうを持っていないことです。胆のうを持っていない動物はほかにいません。鳩だけです。みなご存じでしょう。胆汁は苦いものです。苦さと争いと高ぶりとは、私たち人間の性質の特徴です。鳩は柔和、謙虚さ、温和によって特徴づけられています。何と多くの人々の人生が、誇りの胆汁によって破壊されたことでしょうか。

鳩の謙虚さはどのようにして表われるのでしょうか。

あなたは、間違っただけをしたと気が付いたなら、そのことを正直に告白しなさい。即ち、「私が最近言ったことを赦してください。言わなかったほうがよかった」と。或いは、「私はあなたに対して批判的な態度をとってしまい、深く考えもせずあなたのことについて話してしまいました。ごめんなさい」と。これこそが謙虚さです。

けれど、ある人があなたに謝罪を要求すると言うなら、これは高ぶり、辛らつ、喧嘩好きのしるしです。イエス様は次のように言われました。

マタイの福音書 11章29節

「わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。」

「そうすればそのとき初めて、たましいに安らぎが来ます」。

私たちの主イエス様は、心の優しい方でしたが、決して弱い方ではなかったのです。イエス様の心からの願いは、それまでのいわゆる弟子たちに、「本当の弟子になってもらいたい」ということでした。

イエス様は、ご自身のみ足のあとに踏み従って来る人たちが欲しかったのです。これはどのようにして可能となるのでしょうか。それは、聖霊に満たされたときであり、彼らの傲慢さ、自己追求や闘争心から解放されたときです。聖霊に満たされた人たちとともに生活することは、本当に楽しみであり、喜びです。

人の心はどのようにして変えられるのでしょうか。聖霊に満たされることによって、初めて変えられるようになります。

4. 最後に、聖霊に満たされていると、イエス様のご命令に喜んで従うことの素晴らしさを経験します。別のことばで表現するなら、主のあらゆる願いに喜んで従おうとする人が聖霊によって満たされている人の特徴です。

主にだけ仕えようとする心、主の合図に応じて即座に行なおうとする従順、主がなさりたいと思っていることを行ないたいという切なる願い、これらが私たちの生活の特徴でもなければなりません。詩篇の作者の預言は、

詩篇 40篇7節、8節

「今、私はここに来ております。巻き物の書に私のことが書いてあります。わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」

これは、私たちの告白でもあるのでしょうか。これは、私たちの心からの叫びなののでしょうか。私たちは心から喜んで、みこころだけを行ないたいのでしょうか。このことは、いったいどうしたら可能なのでしょうか。

聖霊が私たちを満たす時、私たちは、「何があってもみこころだけになるように」という、切なる願いによって満たされるようになります。私たちは、主に次のように叫ぶようになります。「主よ。たとえどんなことがあろうとも、みこころが私の人生において成就されますように」。

使徒行伝 8 章に、一つの実例が出てきます。ピリポという弟子にですが、主は彼に命令なさいました。

使徒の働き 8 章 26 節、27 節

「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」(このガザは今、荒れ果てている。)そこで、彼は立って出かけた。

これは、まことにすばやい従順です。29 節を読むとわかります。

29 節、30 節

御霊がピリポに「近寄って、あの馬車といっしょに行きなさい。」と言われた。そこでピリポが走って行くと、

これは、一人の弟子に明らかにされたもので、父なる神のみこころに応じるイエス様の覚悟です。

使徒行伝 6 章 3 節、5 節によると、ピリポは聖霊に満たされていたと記されています。これが、ピリポが用いられた秘訣です。ですから、ピリポはすぐに立ち上がって出かける備えが出来ていたのです。ピリポは、人間的に見るなら愚かと思われることを喜んで従順に行なったのです。即ちどこへ行くのかわからなくても御霊の声に従ったのです。ピリポは、主がなさりたいことだけを行ないたいという切なる願いを持っていたのです。

最後に、次のような問いが登場してきます。

私たちは、聖霊に満たされるために何をしなければならないのでしょうか。

パウロは、次のように証しすることができました。

コリント人への手紙・第一 2 章 4 節

私のことばと私の宣教とは、…御霊と御力の現われでした。

では、御霊に満たされる生活の秘訣は何でしょうか。

1. イエス様は父のみこころに完全に従われました。

「私たちの思いではなく、あなたのみこころだけになるように」と。イエス様は、父の御手の中にある従順な器でした。その態度は常に次のようなものでした。

「お父様。わたしはここにいます。どうか、あなたのご自由になさってください。わたしはこの地上で、ただあなたのみこころだけが行なわれますように何でも致します」。

イエス様はこの態度をおとりになられたので、聖霊は高いところからの力としてイエス様のうちに宿るようになりました。

2. 前に読みました箇所ですが、ルカ伝3章21節によると、イエス様が祈っておられると、「聖霊がイエスの上に下った」と記されています。

祈りこそ、聖霊に満たされるための前提条件です。五旬節のとき、百二十人の兄弟姉妹が祈っている間、聖霊に満たされました。その少しあとで、祈りの答えとして、弟子たちが新しく聖霊に満たされたと、使徒行伝4章31節に書かれています。

それから、使徒行伝9章11節、17節、18節においては、サウロ（のちのパウロ）について、次のようなことが記されています。「見よ。彼は祈っています」。すぐそのあとで、彼は聖霊に満たされました。

私たちが聖霊に満たされたいと願うなら、

- ・私たちの人生はすべて主に明け渡さなければなりません。
- ・また主のみこころだけを行なうということが、私たちの願いとならなければなりません。
- ・そしてまた、私たちの祈りは、「主よ、私はただあなた様の名誉だけを望みます」というものでなければなりません。

主がヨルダン川の中に立たれたとき、主の切なる願い、イエス様の祈り、主の心からの叫びは、次のようなものだったでしょう。

「父よ。わたしはここにいます。あなたのみこころだけが、わたしを通して行なわれますように」。

与えられた使命を果たすために、聖霊は主が必要とされる「高いところからの力」として、イエス様の上に下りました。

今日、イエス様は、私たちに次のように語っておられます。

「父がわたしを遣わしたように、わたしはあなたがたを遣わします。父はわたしを遣わしました。しかし、父はわたしをひとりにさせず、聖霊がわたしの上に下り、わたしの中にとどまりました。わたしを通して、父が聖霊の力によって贖いのみわざを成就してくださいました。そして今、わたしはあなたがたを遣わします。あなたがたを通して、だれでも罪の赦しと、神との平和、そして永遠のいのちをただでいただくことができるということを、宣べ伝えるべきです。しかし、わたしはあなたがたを一人では行かせません。わたしにあなたがたの人生の全支配権を与えなさい。そうすれば、わたしはあなたがたを用いることができるようになります。わたしの霊はあなたがたを満たし、器として用いるようになります」。

聖霊に満たされること、またイエス様の御手にある器となることにまさる大いなる喜びは何一つありません。

了